

学生の発想が形に！ 居住促進住宅が完成

完成した住宅を
動画にしました



「居住促進住宅」は、舞鶴市が空き家を借り受け、改修した後に、移住を希望する子育て世帯へ貸し出す取り組みです。このたび3年ぶりに、第7号となる住宅が倉梯町に完成しました。過去の6棟を含む、全7棟を舞鶴工業高等専門学校が学生が改修プランを考案し、地元の工務店が施工しています。

今回は、建築資材の高騰という厳しい条件の中、学生の柔軟な発想とコスト削減の工夫により、子育てしやすい住宅へと生まれ変わりました。6月30日、完成お披露目会を実施し、7月から入居者の募集を開始しています。舞鶴市は今後も地域の皆さんと移住の促進に取り組んでいきます。

《ふるさと応援課》

こだわりポイント

01

一直線の動線が生む空間のゆとり

After

Before



壁と天井を取り払い、玄関からデッキまで一直線につながる動線を確保。奥行きと開放感のある空間に。

02

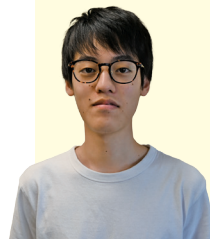
既存空間と新デザインのコントラスト



年月を経て味わいを増した本棚や壁は、そのまま生かし、次世代へ受け継いでいける設計に。

設計に携わった高専生に聞いてみました！

ものづくりへの興味から、建築を学ぶことができる舞鶴高専に入学しました。今回、入学6年目にして初めて居住促進住宅の改修に携わり、実際の住宅図面を描きました。厳密さや予算管理の難しさにプレッシャーもありましたが、完成した住宅を見たときは大きな喜びを感じました。



舞鶴工業高等専門学校 専攻科1年 平中 太朗さん

設計で一番こだわったのは「空間のゆとり」です。開放感のある住環境とするために、天井や壁を取り払いました。また子育て世帯を意識し、従来は分散していた家事動線を家の中心に集約。家事をしながらリビングで遊ぶ子どもを見守れるようにしました。どこにいても家族の温もりを感じながら、笑顔あふれる毎日をこの家で過ごしてほしいです。



▲研究室でプランを設計



▲お披露目会での発表

vol.113

まいづる元気人

スマホと上手につきあう夏休みに

医療と教育の経験を生かして

教育大学を卒業後、当時指導を受けていた医師に同行して渡米し、子どもの脳の仕組みや発達を学びました。帰国後は舞鶴で30年間教壇に立ちました。現在は、脳の発達に関する医療の知識と教育経験を生かし、全国でも数少ない、特別支援教育の最高峰の資格「特別支援教育士スーパーバイザー」として活動しています。この資格を持つことで、学校の先生へ専門的な助言を行うことができ、子ども達一人ひとりが充実した学校生活を送れるように現場を支えています。



▲子どもをとりまく課題を講演

スマホの利用が与える影響

今、スマホを長時間利用することと子どもに与える影響を心配しています。

スマホは対話ではなく、情報を一方通行に受け取るだけであり、動画やゲームの目まぐるしい変化は、成長段階の子どもの脳に強い刺激を与え続けます。また「相手の話を聞き、自分の言葉で伝える」という双方向の経験を子どもから奪います。その結果、言葉を交わす力が育ちにくくなり、対話が苦手になる他、うまく感情をコントロールできずにイライラしやすくなります。

さらに、画面から出る強い光を夜遅くまで浴びると、睡眠を促す脳の仕組みが乱れて、朝起きられなくなるなど、不登校の要因につながる場合もあります。

スマホがある時代の子育てと、夏休みの工夫

子どものスマホ利用には、親の姿が大きく影響しています。まずは食事中などにスマホを触っていないか、日頃の自分の行動を振り

返ってみましょう。

その上で、スマホ以外に子どもの興味を広げるには、涼しい室内でできる「脳を育てる運動や遊び」がお勧めです。例えば、バランスボールを使い体幹を鍛えたり、手先や体を使ったりする遊びは、脳を刺激し、集中力や将来の学習能力の土台を作ります。

また、スマホやゲームの利用時間は「1日1時間」と時間で縛るよりも「このステージが終わったら」「この動画を見終えたら」などと区切りよく終われるように約束をしてみましょう。子どもが納得して終わることが「自分でやめる」という自立の習慣につながります。ただ禁止するだけではうまくいかないからこそ、ルールや遊びに少しの工夫をしましょう。スマホとうまく付き合いつながりながら、夏休みを子どもと楽しんで過ごしてください。

悩みごとの相談は こども家庭センターへ

子どもに関するさまざまな悩み事はこども家庭センターで相談できます。詳しくは、市ホームページで。右コードからアクセス可。

